

平成 22 年（2010 年）度 静療院一括公表

| レベル | 件数 | | 説明 |
|----------|-------|-------|--|
| | 21 年度 | 22 年度 | |
| レベル 0 | 131 | 129 | ○事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例 ○実施される前に気づいた事例 (22 年度における主な事例) ・採血試験管のラベルが違う患者名だったのを採血前の確認で気づいた。 ・ベッドへの誘導時、離床センサーの電源が入っていなかった事に気づいた。 |
| レベル I | 165 | 181 | ○実害がなかった事例 (22 年度における主な事例) ・予定日に採血を忘れ日程変更し実施した。 ・予約診療の台帳への記載漏れがあり患者が来院した。 |
| レベル II | 145 | 158 | ○処置や治療を行わなかった事例 ・観察の強化、バイタルサイン*の軽度変化、確認のための検査の必要性が生じた。 (22 年度における主な事例) ・遮光の採血容器に血液が入っていないと検査室から連絡あり、再採血を実施した。 ・ベッドストッパーが掛かってなく、つかまり立ちの際に転倒したが外傷はなかった |
| レベル IIIa | 59 | 52 | ○簡単な治療や処置を要した事例(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与、カテーテルの自己抜去等) (22 年度における主な事例) ・目薬を入れようと上を向いた際、ふらつき転倒し頭部裂傷したため処置を行った。 ・咀嚼*不良な患者の食事介助中、顔面蒼白、口唇紫色となったため吸引処置を実施し呼吸状態が回復した。 |
| レベル IIIb | 0 | 2 | ○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサイン*の高度変化、人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院、手術等) (22 年度における主な事例) ・作業療法の出棟時に転倒し、大腿骨頸部骨折をきたしたことから、手術のために転院となった。 ・更衣の際のふらつき転倒により、後頭部裂傷と右大腿骨骨折をきたしたことから、手術のために転院となった。 (主な再発防止の取り組み) ・高齢者の転倒リスク評価と観察強化 ・転倒リスクの高い患者への説明と職種間の情報共有 ・患者日常生活行動に合わせたセンサー機器使用の工夫 |
| レベル IV | 0 | 0 | ○障害が残った事例 |
| レベル V | 0 | 0 | ○死因となった事例 |
| その他 | 6 | 15 | ○対象が患者以外のもの、レベル判定不可能なもの等 (22 年度における主な事例) ・嘔吐物処理時、混入していた義歯を汚物槽に流してしまった。 ・病状不安定による器物破損と職員への暴力 ・患者間暴力による患者・家族からのクレーム |
| 総数 | 506 | 537 | |

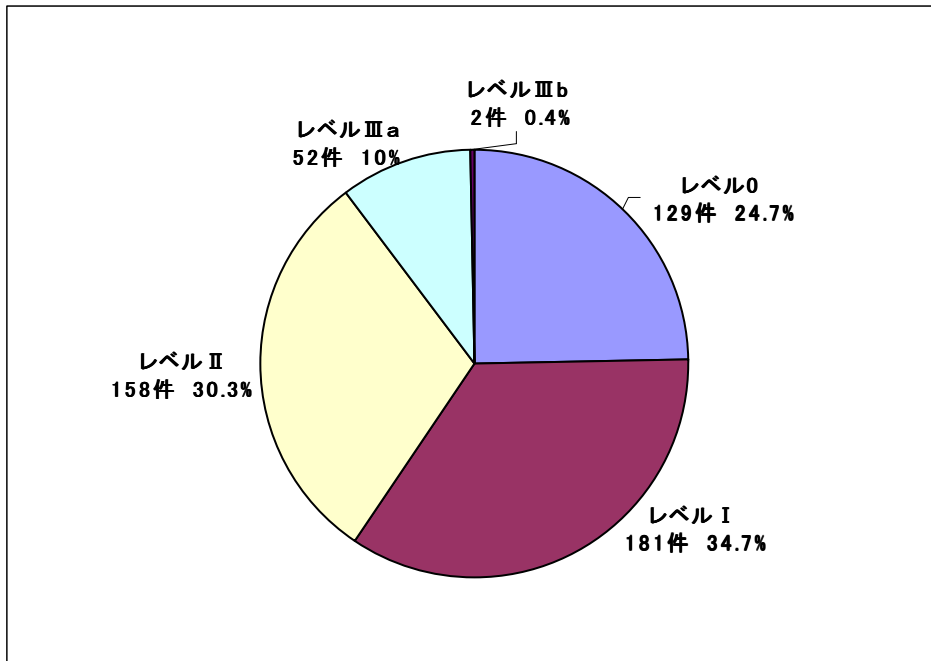
*バイタルサイン(生命徴候):脈拍、呼吸、体温、血圧などのこと

*咀嚼:口に入れた食物等を噛み砕く運動のこと

平成 22 年度に発生した医療事故等のレベル別及び種類別割合（静療院）

(1) レベル別割合

【図 1】



(2) 医療事故等の種類別割合

【図 2】

